



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

東日本決勝 美浦ゴルフ倶楽部(茨城県) 最終日 結果のお知らせ

<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会>

◇最終日◇4月22日◇茨城・美浦GC (15-18歳の部男子6530ヤードほかカテゴリー別、パー72)
◇晴れ◇出場163人

<東日本決勝 最終日概況>

『IMG A世界ジュニアゴルフ選手権(7月10~13日、米カリフォルニア州サンディエゴ)』の日本代表14人が決まった。15-18歳の部男子は、吉田隼汰(茨城・日本ウェルネス高1年)がこの日69で回り、通算5オーバー149で優勝。2位には3位に1打差で蟬川泰果(大阪・興国高3年)が入って世界ジュニア代表入りした。同女子は石川茉友夏(群馬・前橋育英高3年)が通算4オーバーで優勝、1打差2位の六車日那乃(千葉・麗澤高2年)とともに初の世界ジュニア代表になった。13-14歳の部男子では、中野麟太郎(東京・明大付中野中3年)が通算8オーバーで優勝。代表2人目を争うプレーオフになり大野倅(千葉・旭中3年)が手にした。同女子は花田華梨(栃木・宝木中3年)が通算4オーバーで1位、1打差2位に榎本杏果(東京・新宿中3年)が入り、ともに2年連続の世界ジュニア代表となった。

また、15-18歳の部男子1位の吉田に男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位の中野に同大会の出場を争うAbemaTVツアー「HEIWA・PGM Challenge~Road to CHAMPIONSHIP」出場権がそれぞれ与えられた。

これで西日本決勝大会、6歳以下の部決勝大会を含めて、日本代表30人が決定した。

今大会で決定した日本代表は、以下の通り。

▽15-18歳の部男子

【1位】吉田隼汰(茨城・日本ウェルネス高1年) = 149

【2位】蟬川泰果(大阪・興国高3年) = 154

▽同女子

【1位】石川茉友夏(群馬・前橋育英高3年) = 148

【2位】六車日那乃(千葉・麗澤高2年) = 149

▽13-14歳の部男子

【1位】中野麟太郎(東京・明大付中野中3年) = 152

【2位】大野倅(千葉・旭中3年) = 154

▽同女子

【1位】花田華梨(栃木・宝木中3年) = 148

【2位】榎本杏果(東京・新宿中3年) = 149

▽11—12歳の部男子

【1位】本大志（神奈川・末吉中1年）＝158

▽同女子

【1位】藤代成実（埼玉・八潮中1年）＝156

▽9—10歳の部男子

【1位】桜庭祿碩（青森・是川小5年）＝165

▽同女子

【1位】斎藤碧夏（北海道・北光小5年）＝161

▽7—8歳の部男子

【1位】石口寛樹（奈良・大正小3年）＝156

▽同女子

【1位】渡部琴（東京・Tokyo International School 3年）＝167

●東日本決勝 最終日ハイライト1

◇15—18歳の部男子◇最終日◇4月22日

◇茨城・美浦GC（6530ヤード、パー72）

吉田隼汰（茨城・日本ウェルネス高1年）が通算5オーバー149で逆転優勝し、初めての世界ジュニア代表を決めた。うれしいのとありがたいのとの両方です」と、笑顔を見せた。感謝するのは両親、小学校3年生から通っている埼玉県内のゴルフ練習場「アーリーバード」、父ひろしさんが会員のゴルフ場「あさひヶ丘CC」の3つだという。首位に3打差でスタート。2打差で折り返した後半アウトの1番で3メートルのバーディーパットがカップのふちにとまりそうになってから落ちて「波に乗れた」という。2番パー5で110ヤードの第3打を残したが「あさひヶ丘は会員に無料でプレーさせてくれるのでいつも回っていて、同じような距離をサンドウエッジだと戻ってくるのを知っていたのでピッチングで軽く打った」と2メートルにつける連続バーディー。6番パー5の第3打では30ヤードのアプローチだったが「練習場に30ヤードの看板があって、いつも狙っていたんで自信があった」と1メートルにつけた。後半4バーディー、1ボギーの33で回ってこの日69で回った。「これで調子に乗らないで、最後まであきらめなくて戦ってきたいです」と、意欲を見せていた。



写真：15-18歳男子 吉田隼汰
©IJGA2018

●東日本決勝 最終日ハイライト2

◇15—18歳の部女子◇最終日◇4月22日

◇茨城・美浦GC（6330ヤード、パー72）

石川茉友夏（まゆか、群馬・前橋育英高3年）が六車日那乃（千葉・麗澤高2年）との4打差を逆転、通算4オーバー148で優勝した。初めて進んだ東日本決勝大会で世界ジュニア切符をつかみ「めっちゃ、うれしい。トップで行けるとは思っていなかった」とニコニコ。この日は「パッティングがよかった」という。パーオンはするものの「ピンと逆のほうに行って、ロングパットが多かったけど、2パットで行けた」と振り返る。大会前に練習ラウンドができず、前日はぶっつけ本番で「下見をしました」といい、最終日につなげた。世界ジュニアに向けては「メンタルが弱いと、下半身が弱いので、鍛えないと。今は家の周りを走っています」という。本戦までに国内での試合がいくつかあるが「全部優勝して、その勢いで行きたい」と、威勢がよかった。



写真：15-18歳女子 石川茉友夏
©IJGA2018

●東日本決勝 最終日ハイライト3

◇13-14歳の部男子◇最終日◇4月22日

◇茨城・美浦GC（6530ヤード、パー72）

中野麟太郎（東京・明大付中野中3年）が粘りのゴルフで1オーバー73をマークし、通算8オーバー152で5打差逆転優勝を果たした。「昨日、首位と5打差あったんで2位に入れたらと思ったんですけど、ハーフを終わったらみんなスコアを崩していたんで、後半頑張りました」という。後半アウトの3番でピン下7メートルのバーディーパットを沈めた。「アイアンがよくて、ほとんどパーオンしていた。3パットもなかったのがよかった」と振り返った。小3からこの予選に挑戦。いつも地区予選で落ちていたが、今回初めて東日本決勝大会に進み、その勢いで世界ジュニア代表まで手にした。「うれしくて、信じられないです」と笑った。飛躍の要因は身長も176センチに伸び「中2になってから、飛距離が260ヤードぐらいになって、バーディーを狙えるゴルフができるようになったこと」という。世界ジュニアに向けては「パーオンできてチャンスは作れるようになったけど、肝心のバーディーパットを外しているんで、そこを練習したい」と課題を挙げた。



写真：13-14歳男子 中野麟太郎
©IJGA2018